

篠山環境みらいの会

丹波篠山市

丸山湿原群保全の会

エコグループ・武庫川

武庫川づくりと流域
連携を進める会

宝塚市自然保護協会

宝塚市 はんしん自立の家

武庫川
集水域

21世紀の武庫川を考える会

神戸女学院大学
生命環境学部

西宮共同幼稚園

津門川の自然を守る会

浜・川・山の自然たんけん隊

西宮自然保護協会

(株)ヤマサ環境
エンジニアリング

想定氾濫
区域

地図は兵庫県の
資料をもとに作成

武庫川流域ネットワークには、源流から浜辺
まで各地域で活動する団体や個人が参加
(2024年4月現在 団体13、個人67名)

武庫川は、丹波篠山市から三田盆地を流れる上流部、
急峻な武庫川渓谷の中流部を経て、下流部の阪神市街
地を流れ下って大阪湾へと注ぐ全長66kmの川です。
兵庫県の管理する2級河川ながら、想定氾濫区域の人口
100万人超と資産額は、ともに全国の河川の中でも
10位に位置します。

いま武庫川では、2011年に策定された河川整備計画
(20年間)が進んでいます。ダムの新設に頼らず、下流
部での堤防強化や河床掘削・拡幅などによって流下能力
を高める河川対策とともに、流域対策と減災対策を
重視する総合的な治水対策事業です。

この計画は、治水とともに、生物多様性や生物の住
み場所を維持するなど、環境への大きな配慮を明記し
ています。下流部の「潮止堰」の撤去によって汽水域
が広がり、海と川がつながる豊かな生態系の回復が期
待されます。

武庫川流域圏ネットワーク(略称 武庫川ネット)は、
この計画が策定された2011年に発足しました。変わり
つつある武庫川を見守り、その自然や景観の魅力を高
めるために、武庫川に関わりをもつさまざまな個人や
団体が自由に意見を交わし、武庫川づくりや地域づく
りを進めていきます。

武庫川ネットの主な活動内容

- ① 武庫川に関連する情報発信
- ② お掃除会
- ③ 特定外来生物 オオキンケイギクの駆除
- ④ 津門(つと)川の環境保全
- ⑤ 活動報告会と講演会(各年1回)

■ 武庫川流域圏ネットワーク ■

年会費：個人 1,000 円 団体 2,000 円

連絡先 (Mail) : mukogawaken.net@gmail.com

HP : <https://muko.jimdo.com>



私たちの活動は多くの団体からご支援・協力をいただいています
ひょうご環境創造協会／コープこうべ／兵庫県／西宮市／宝塚市
／神戸女学院大学／ヤマサ環境／西宮高齢者事業団／ほか

魅力ある武庫川づくりへ 手をつなごう

武庫川流域圏ネットワーク

Network for Citizen Movement in Muko River



上左：武庫川起点標識(南矢代駅近く)

上右：千苺ダム

中上左：武庫川第2橋梁

中上右：武庫川渓谷

中下左：アユ遡上

中下右：カワラサイコ

下：甲武橋から下流をのぞむ

ダム新設に頼らず、安全・安心で、
より魅力ある武庫川を求める市民活動

武庫川の昔と今

大正年間（1912年）の武庫川改修計画の図面は何を語る

室町時代（1557年）の洪水で枝川が分流、江戸時代（1740年）に申川が分流。
旧甲子園ホテル北側に残る枝川樋門は1923年枝川廃川の遺構。
1924年に枝川と申川の分岐点に甲子園球場。数百年にわたり本流と2本の分流で海に注いでいた武庫川は100年前に1本となる。
現在、河床掘削と拡幅による流下能力確保のため、20年かけた数百億の巨大工事中。
この100年の人の営みは、正しい選択だったのでしょうか？



写真：兵庫県提供

拡幅工事と堤防強化が進む武庫川
国道2号上流（2022年）

撤去される潮止堰
阪神鉄橋下流（2022年5月）



武庫川河川敷 お掃除会



仁川合流点付近での住民参加のお掃除会

河原や浜辺に散乱するプラスチックゴミは海洋汚染のもと
地元の中学生や大学生もお掃除会に参加

参加者が集めたゴミはプラ、ペットボトル、燃えるゴミなどに分別して計量
ゴミは廃棄物処理専門の参加団体企業が、大型ゴミは市が処分に協力



オオキンケイギクの駆除

鮮やかな黄色の
特定外来生物



2024年からは兵庫県と共同して護岸に遮光シートを設置、駆除のための実験を実施中です。



この北米産植物は強い繁殖力で他の植物を圧倒、生態系への影響が懸念されます。
仁川では2015年から10年間で30回以上の住民参加の駆除活動を実施。場所によっては減少しましたが、まだ多くの群落が残っています。

津門川の環境保全

「魚さん帰ってきて」

2018年新幹線トンネルからのモルタル流出事故により魚類などの大量死が発生し、武庫川ネットは専門家を含めた魚類の生息調査を開始しました。

その後、兵庫県が魚道の改良工事を進めると、激減した魚類の確認種数も事故前の水準近くにまで回復。

2023年10月の調査では、16種を確認、調査結果は学術誌に発表しています。

津門川の魚類調査は、今後も続きます。



活動報告会と講演会



毎年春に講演会、秋に活動報告会を開催
武庫川に関心をもつどなたでも参加自由
中学生、高校生、大学生も活動報告会で発表

表彰

地域での環境保全活動が認められ、兵庫県知事（2017年）、環境大臣（2020年）、西宮高齢者事業団（2022年）より表彰

